

教育に関する事務の点検・評価報告書

(平成29年度実施事業分)

仙南地域広域行政事務組合教育委員会

基本目標

1 視聴覚教材センター視聴覚教育計画

圏域住民一人ひとりが、心豊かに生きがいを感じ、絆づくりと互助・共助による活力があるコミュニティ形成を目指し、生涯を通じて自立・協働・創造に向けた学習活動を展開する中で、視聴覚教材センター（あずなびあ）では、各世代が様々な学習ニーズに応じて活用できる視聴覚教材・機材を整備していく。さらに、地域に根ざしたテーマに基づく視聴覚教材制作を進めて、郷土愛、創造力豊かな人材育成を図ることで、圏域住民一人ひとりの生涯学習活動の更なる充実をめざす。

2 仙南広域圏の振興発展に資する事業計画

本事業は、子どもたちが興味・関心を持つことのできる事柄を通じて、ことさらに自治体の枠を超えて、圏域の将来の文化活動を担う人材育成することを目標とする。また、次代を担う子どもたちと地域の文化を『はぐくむ』ことをテーマとした事業を実施する。

3 仙南芸術文化センター（えずこホール）事業計画

仙南芸術文化センター（えずこホール）運営の基本コンセプトは、住民参加型文化創造施設。社会包摂の考え方を基本に、圏域住民の皆さんがホールを拠点にいきいきとアート活動を展開し、手作りで舞台を制作。また、地域内の各機関と連携しながらアウトリーチ活動を展開することにより、人とアートによる地域活性化の循環を促進し、仙南圏域をいきいきさせていくことを目指す。鑑賞事業については、各分野から質の高いものを招聘し、優れた舞台表現にふれていただくと同時に、ワークショップ等、住民の皆さんが気軽に参加体験できるプログラムを併せて開催する。

平成29年度は、例年同様ホールを拠点に開催する創造発信事業と、地域で開催するアウトリーチ事業を充実した企画内容で展開。併せてさまざまな分野の公演を幅広いラインアップで開催、えずこホールが世界の窓となり広くアートを参加体験していただく機会を提供する。

平成29年度のえずこホールは、創造的な人と地域づくりを促進する各種事業を幅広く継続的に推進。圏域内のさまざまな機関、人と連携、協働しながら、新しい時代の新しいアートによる地域創造事業を展開していく。

I 事務の点検・評価について

1. 点検評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することとされています。また、点検評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験者を有する者の知見の活用を図ることとなっています。

このため、教育委員会では、教育行政の効果的な推進を図るため、「教育に関する事務の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

2. 点検評価の対象

平成29年度に教育委員会が定める「基本目標」に掲げた事務事業を対象としました。

3. 点検評価の方法

点検評価は、事務事業の必要性、効率性、有効性、公平性の観点から自己評価を行いました。また、客観性を確保するため、教育行政点検評価員会議を開催し、教育行政点検評価員として委嘱した外部の学識経験者（委嘱先については次頁参照）より意見をいただきました。

4. 結果の取り扱い

この点検評価の結果については、課題や問題の解決を行うと同時に事務事業の見直しについて検討することとなります。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 教育行政点検評価員会議について

1. 開催日時・場所

日 時：平成30年9月27日（木）

場 所：仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター会議室

2. 会議次第

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. あいさつ（当組合教育次長より）
4. 教育に関する事務の点検・評価について（平成29年度実施事業分）
5. 閉会

3. 教育行政点検評価員の略歴

○鈴木 悦郎 氏

性 別	男	年 齢	70歳	在住市町	丸森町
加盟団体等	丸森町文化財友の会、大内文化協会				
主要経歴	丸森町教育委員会社会教育主事。				
	丸森町青年団体連絡協議会長、大河原地区社会教育主事研究協議 会長、仙南青年団体連絡協議会長、国立花山少年自然の家運営委員、				
	宮城県民俗芸能詳細調査員、宮城県婦人教育・婦人団体調査員な ども務めてきている。				

○大脇 賢次 氏

性 別	男	年 齢	62歳	在住市町	柴田町
加盟団体等					
主要経歴	愛知県豊山町立豊山中学校講師 他4校の講師				
	宮城県柴田郡村田町立村田第一中学校教諭 他7校歴任				
	全国自作視聴覚教材コンクール入選（4回）				
	文部省奨励研究（平成4年・一年間）				
	宮城県視聴覚教育功労者表彰				

II 点検・評価の結果

1. 視聴覚教材・機材の整備及び貸出事業

事業目的	視聴覚教材・機材を適切に整備し、社会教育及び学校教育における学習活動場面での効果的な利用促進を図る。
事業名	① 視聴覚教材・機材の貸出 ② 学校教育・社会教育専門部会

成 果	課 題																						
<p>① 視聴覚教材・機材の貸出</p> <p>視聴覚教材については、すべての教材において、利用回数・視聴者数が減となっている。</p> <p>視聴覚機材についても、ほとんどの機材において、利用回数が減となっている。なお、液晶プロジェクターの利用回数は全体の 45.5%を占めている。</p> <p>○教材利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教材種別</th> <th>利用回数</th> <th>視聴者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>DVD</td> <td>610回(740回)</td> <td>21,296名(19,242名)</td> </tr> <tr> <td>VHS</td> <td>89回(71回)</td> <td>1,884名(933名)</td> </tr> <tr> <td>16ミリ</td> <td>77回(62回)</td> <td>3,743名(2,675名)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>180回(368回)</td> <td>4,448名(4,259名)</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>956回(1,241回)</td> <td>31,371名(27,109名)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※その他の教材は、紙しばい、パネルシアター、エプロンシアターである。</p> <p>○機材利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>利用回数</th> <th>うちプロジェクター利用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,355回(497回)</td> <td>617回(236回)</td> </tr> </tbody> </table>	教材種別	利用回数	視聴者数	DVD	610回(740回)	21,296名(19,242名)	VHS	89回(71回)	1,884名(933名)	16ミリ	77回(62回)	3,743名(2,675名)	その他	180回(368回)	4,448名(4,259名)	合 計	956回(1,241回)	31,371名(27,109名)	利用回数	うちプロジェクター利用回数	1,355回(497回)	617回(236回)	<p>VHS教材及び 16 ミリフィルム教材の利用回数、視聴者数が大きく増加している。その一方で、DVD、パネルシアター、エプロンシアター等の利用回数が減少しているが、利用者は増加している。利用者に求められている教材の種類が変化していると考えられるため、求められる教材を整備していき、利用の増加を図りたい。</p>
教材種別	利用回数	視聴者数																					
DVD	610回(740回)	21,296名(19,242名)																					
VHS	89回(71回)	1,884名(933名)																					
16ミリ	77回(62回)	3,743名(2,675名)																					
その他	180回(368回)	4,448名(4,259名)																					
合 計	956回(1,241回)	31,371名(27,109名)																					
利用回数	うちプロジェクター利用回数																						
1,355回(497回)	617回(236回)																						
<p>② 学校教育・社会教育専門部会</p> <p>視聴覚教材選定を行うにあたり、以下の日程で各教育専門部会を開催した。</p> <p>・学校教育・社会教育専門部会（30名） 3月5日（月）</p> <p>○平成 30 年度購入予定教材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>社会</th> <th>理科</th> <th>その他</th> <th>A領域</th> <th>B領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4 巻 (6 巻)</td> <td>2 巻 (3 巻)</td> <td>4 巻 (3 巻)</td> <td>13 巻 (22 巻)</td> <td>6 巻 (4 巻)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※A領域は幼児・少年・青年向け、B領域は成人・婦人・高齢者向け。</p>	社会	理科	その他	A領域	B領域	4 巻 (6 巻)	2 巻 (3 巻)	4 巻 (3 巻)	13 巻 (22 巻)	6 巻 (4 巻)	<p>平成 28 年度より年度当初から視聴覚教材を新しく整備できるようにしたが、平成 29 年度に購入した視聴覚教材の利用率は 29 巻中 9 巻のみであったので、今後も新規購入教材の利用率を増加させるための手立てを検討していきたい。</p>												
社会	理科	その他	A領域	B領域																			
4 巻 (6 巻)	2 巻 (3 巻)	4 巻 (3 巻)	13 巻 (22 巻)	6 巻 (4 巻)																			

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
○小中学校では新学習指導要領の改訂により、求める教材が変わってきている。特に、小学校では英語と道徳が教科化したことにより、悩んでいる先生方が多いと思われる。視聴覚教材センターでもそれに対応した教材を整備する必要がある。	○専門部会等で現場の先生方から要望の聞き取りをし、より現在の教育現場で求められる教材を整備していきたい。

2. 各種講座及び学習機会提供事業

事業目的	新しい知識や技術の習得を目指し、研修内容の充実を図るとともに、学習ニーズの拡大に対応した学習活動を支援する。
事業名	① シニアにやさしい かんたん！ビデオ講座（定員各8名） ② 出前講座 ③ あずなびあまつり（視聴覚教材センターフェスティバル）

成 果	課 題																
<p>① シニアにやさしい かんたん！ビデオ講座</p> <p>※講師はセンター職員が担当</p> <p>仙南圏域の50歳以上の方を対象に実施。基礎的なパソコンの操作方法と、少し発展させた複数の画像や動画を組み合わせた動画制作の方法を習得してもらう。期間内の各週月曜日の13時～16時に開催。全6回コース。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>期 間</th> <th>受講者数</th> <th>受講率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A日程</td> <td>5月8日(月)～ 6月12日(月)</td> <td>6名</td> <td>75.0%</td> </tr> <tr> <td>B日程</td> <td>7月24日(月)～ 9月4日(月)</td> <td>14名</td> <td>175.0%</td> </tr> <tr> <td>C日程</td> <td>10月16日(月)～ 11月20日(月)</td> <td>8名</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※8月14日(月)はお盆のため休講。</p>		期 間	受講者数	受講率	A日程	5月8日(月)～ 6月12日(月)	6名	75.0%	B日程	7月24日(月)～ 9月4日(月)	14名	175.0%	C日程	10月16日(月)～ 11月20日(月)	8名	100.0%	<p>平成28年度のシニア向けの講座の日程と回数を増やし、よりゆっくりとしたペースで学べるように企画したところ、B日程のみ定員を超える方々からの申し込みがあった。</p> <p>今後ともパソコンソフトの基礎的な操作について学べる時間を確保しながら、地域教材や自作視聴覚教材の周知を図っていきたい。</p>
	期 間	受講者数	受講率														
A日程	5月8日(月)～ 6月12日(月)	6名	75.0%														
B日程	7月24日(月)～ 9月4日(月)	14名	175.0%														
C日程	10月16日(月)～ 11月20日(月)	8名	100.0%														

成 果	課 題																																																																	
<p>② 出前講座 ※講師はセンター職員が担当 申し込み者の要望に合わせて各種講座等を展開した。</p> <p>○ワード基礎講座</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会 場</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月17日(水)</td> <td rowspan="3">七ヶ宿町社会福祉協議会</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>5月18日(木)</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>5月25日(木)</td> <td>8名</td> </tr> </tbody> </table> <p>○エクセル基礎講座</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会 場</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月13日(火)</td> <td rowspan="3">七ヶ宿町社会福祉協議会</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>6月14日(水)</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>6月15日(木)</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>7月14日(金)</td> <td rowspan="3">丸森地区協議会</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>8月2日(水)</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>8月10日(木)</td> <td>5名</td> </tr> </tbody> </table> <p>○パソコンを使った写真・ビデオ編集講座</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会 場</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月17日(水)</td> <td rowspan="2">ざおうの杜 (蔵王町)</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>9月6日(水)</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>7月6日(木)</td> <td rowspan="3">関保育所 (七ヶ宿町)</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>8月22日(火)</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>9月20日(水)</td> <td>4名</td> </tr> </tbody> </table> <p>○プレゼンテーション講座</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会 場</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8月30日(水)</td> <td>ざおうの杜 (蔵王町)</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>12月2日(土)</td> <td rowspan="2">白石市中央公民館</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>12月16日(土)</td> <td>7名</td> </tr> </tbody> </table> <p>○シニア向けパソコン講座</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会 場</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月27日(火)</td> <td rowspan="4">大河原町中央公民館</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>7月25日(火)</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>8月29日(火)</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>9月26日(火)</td> <td>5名</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	会 場	受講者数	5月17日(水)	七ヶ宿町社会福祉協議会	8名	5月18日(木)	8名	5月25日(木)	8名	開催日	会 場	受講者数	6月13日(火)	七ヶ宿町社会福祉協議会	10名	6月14日(水)	7名	6月15日(木)	6名	7月14日(金)	丸森地区協議会	6名	8月2日(水)	5名	8月10日(木)	5名	開催日	会 場	受講者数	5月17日(水)	ざおうの杜 (蔵王町)	6名	9月6日(水)	3名	7月6日(木)	関保育所 (七ヶ宿町)	3名	8月22日(火)	4名	9月20日(水)	4名	開催日	会 場	受講者数	8月30日(水)	ざおうの杜 (蔵王町)	8名	12月2日(土)	白石市中央公民館	8名	12月16日(土)	7名	開催日	会 場	受講者数	6月27日(火)	大河原町中央公民館	5名	7月25日(火)	3名	8月29日(火)	5名	9月26日(火)	5名	<p>昨年度と比較して、開催回数は5回増加し、受講者数は4名減少した。平成29年度はリピーターの団体以外にも、社会福祉協議会や地区協議会等で新規の申し込みがあったため、少しずつ周知が図られていると考えられる。</p> <p>今後も広報等でのお知らせに力を入れていき、同時に講座内容を充実させていけるように努める。また、地域映像の保存活動に繋がっていきけるような企画を検討していきたい。</p>
開催日	会 場	受講者数																																																																
5月17日(水)	七ヶ宿町社会福祉協議会	8名																																																																
5月18日(木)		8名																																																																
5月25日(木)		8名																																																																
開催日	会 場	受講者数																																																																
6月13日(火)	七ヶ宿町社会福祉協議会	10名																																																																
6月14日(水)		7名																																																																
6月15日(木)		6名																																																																
7月14日(金)	丸森地区協議会	6名																																																																
8月2日(水)		5名																																																																
8月10日(木)		5名																																																																
開催日	会 場	受講者数																																																																
5月17日(水)	ざおうの杜 (蔵王町)	6名																																																																
9月6日(水)		3名																																																																
7月6日(木)	関保育所 (七ヶ宿町)	3名																																																																
8月22日(火)		4名																																																																
9月20日(水)		4名																																																																
開催日	会 場	受講者数																																																																
8月30日(水)	ざおうの杜 (蔵王町)	8名																																																																
12月2日(土)	白石市中央公民館	8名																																																																
12月16日(土)		7名																																																																
開催日	会 場	受講者数																																																																
6月27日(火)	大河原町中央公民館	5名																																																																
7月25日(火)		3名																																																																
8月29日(火)		5名																																																																
9月26日(火)		5名																																																																

成 果	課 題												
<p>○16 ミリ映写機操作技術講習会</p> <table border="1" data-bbox="226 264 948 416"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会 場</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9月6日(水)</td> <td>川崎町公民館</td> <td>4名</td> </tr> </tbody> </table> <p>○おでかけ！あずなびあ</p> <table border="1" data-bbox="226 488 948 640"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会 場</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月28日(金)</td> <td>筆甫保育所（丸森町）</td> <td>30名</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	会 場	受講者数	9月6日(水)	川崎町公民館	4名	開催日	会 場	参加者数	7月28日(金)	筆甫保育所（丸森町）	30名	
開催日	会 場	受講者数											
9月6日(水)	川崎町公民館	4名											
開催日	会 場	参加者数											
7月28日(金)	筆甫保育所（丸森町）	30名											
<p>③ あずなびあまつり（視聴覚教材センターフェスティバル）</p> <p>視聴覚教材センターの認知度、利用率の向上を目的として開催。おもちゃの交換プログラム『かえっこバザール』と同時に開催することで、参加者の増加と内容の充実を図る。</p> <p>視聴覚関連ブースの内容については以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVD教材の上映（大ホール） ・16ミリフィルム教材の上映（会議室） ・紙しばいの展示や読み聞かせ（ホワイエ） ・パネルシアターの読み聞かせ（ホワイエ） ・視聴覚機材を使ったゲーム（総合体育館研修室） <table border="1" data-bbox="226 1160 948 1357"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会 場</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9月18日(月・祝)</td> <td>仙南芸術文化センター 大河原町総合体育館</td> <td>2,517名 (2,083名)</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	会 場	参加者数	9月18日(月・祝)	仙南芸術文化センター 大河原町総合体育館	2,517名 (2,083名)	<p>平成28年度の課題であった映画会等の回転率が悪く、かえっこプログラムと相性がよくない視聴覚ブースについての改善を図るため、平成29年度では引き続きパネルシアターの読み聞かせや視聴覚機材を使ったゲーム「キャラクター当てクイズ」を企画した。</p> <p>16ミリフィルム教材の上映についても、ただ上映するのではなく、会議室の迷路をくぐり抜けてから見せることによって、子どもたちが楽しく視聴に集中できるしかけも行った。</p> <p>そのため、前回と比較しても視聴覚関連ブースに参加する人が増加した。今後もより魅力的な事業なるように、企画を検討する。</p>						
開催日	会 場	参加者数											
9月18日(月・祝)	仙南芸術文化センター 大河原町総合体育館	2,517名 (2,083名)											

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
<p>○講座や研修会について、視聴覚教育指導員や社会教育主事へのPRをおこなってもらいたい。</p>	<p>○会議や現場訪問の画など積極的にPRを進めていき、充実に努めたい。</p>
<p>○16 ミリ映写機は、各学校で使わずに眠っているものが多いように思う。センター所有の機材が使えないのであれば、そういったところから譲り受けてはどうか。</p>	<p>○各学校等に調査を依頼し、現在の利用状況や機材の保有数等を把握し、利用していない場合は所管替えが可能か交渉したい。</p>

3. 地域学習教材制作の促進と保存事業

事業目的	地域素材を生かした自作視聴覚教材制作の支援と利用促進を図り、地域学習の教育的な効果を高めるとともに、自作視聴覚教材のデジタル化と保存に努める。
事業名	① 仙南地区自作視聴覚教材発表会 ② 地域映像の保存と自作視聴覚教材制作への支援 ③ 自作視聴覚教材のデジタル化

成 果	課 題								
<p>① 仙南ふるさとC-M (コミュニティ・メディア) グランプリ (仙南地区自作視聴覚教材発表会)</p> <p>自作視聴覚教材の制作技術の向上、教材制作の奨励及び自作視聴覚教材の整備充実を図るため、仙南地区自作視聴覚教材発表会を開催した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>作品数</th> <th>参加者数</th> <th>一般視聴者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2月6日(火)</td> <td>9作品 (6作品)</td> <td>7名 (6名)</td> <td>10名 (3名)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○全国自作視聴覚教材コンクール (平成30年8月開催) 9作品推薦。</p>	開催日	作品数	参加者数	一般視聴者数	2月6日(火)	9作品 (6作品)	7名 (6名)	10名 (3名)	<p>平成28年度の課題であった名称変更と部門の変更を行ったことにより、今年度も非常に中身の濃い作品が出品され、新規の制作者も2名いたため、全体の応募数は増加した。これからは引き続き作品の応募増加と周知徹底を図っていきたい。</p>
開催日	作品数	参加者数	一般視聴者数						
2月6日(火)	9作品 (6作品)	7名 (6名)	10名 (3名)						
<p>② 地域映像の保存と自作視聴覚教材制作への支援</p> <p>地域素材を映像に記録・保存したり、地域映像を制作したりする意欲ある団体や個人に対して、センター職員が助言や編集の支援を行い、地域映像の保存を図るとともに、自作視聴覚教材制作への支援を行った。</p> <p>○ビデオ編集システムの利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校教育部門</th> <th>社会教育部門</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2回 (6回)</td> <td>1回(13回)</td> <td>3回(19回)</td> </tr> </tbody> </table>	学校教育部門	社会教育部門	合 計	2回 (6回)	1回(13回)	3回(19回)	<p>利用実績が前年度比で大幅に減少した。地域映像の記録に努めることは視聴覚教材センターにとって大きな役割のため、制作支援事業により力を入れていきたい。</p>		
学校教育部門	社会教育部門	合 計							
2回 (6回)	1回(13回)	3回(19回)							
<p>③ 自作視聴覚教材のデジタル化</p> <p>当センターでは数多くの自作視聴覚教材を保有している。現在保有している自作視聴覚教材 (アナログ教材) はデジタル化している。</p>	<p>今後は発表会に出品のあった作品のデジタル化に努めたい。</p>								

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
<p>○現在は少額の費用でも自作視聴覚教材が作れるため、前にあった制作補助金を少ない金額で復活してはどうか。</p>	<p>○制作補助金は、金額が少ない場合でも必要な事務手続きは変わらず、また制作者側に提出してもらう書類も出てくるため、手間はかえって増えてしまうと考えられる。まずは違う手立てで制作者の増加に努めたい。</p>

<p>○自作視聴覚教材について、まずは各種会議で担当者への啓発を促してみてもどうか。</p>	<p>○ご意見のとおり、各種会議で自作視聴覚教材制作について啓発していきたい。現在もその中で制作に向けて少しずつ動いている状況である。</p>
--	---

4. 各種関係団体との連携事業

事業目的	<p>学校教育及び社会教育関係、各地域の団体等と連絡提携を密にし、視聴覚教材センターとしての機能の充実と生涯学習体制の推進を図る。また、その学習要求に応えられるように情報提供の充実に努める。</p>
事業名	<p>① 諸会議関係 (1) 視聴覚教育指導員会議 (2) 学校教育・社会教育専門部会 (3) 社会教育等主管課長会議 ② 広報活動 ② 現場訪問事業</p>

成 果	課 題												
<p>① 諸会議関係 (1) 視聴覚教育指導員会議 構成市町の生涯学習課、公民館職員 9 名を指導員として委嘱し、視聴覚教材センターのPR活動や、教材利用の促進を図った。任期は 2 年である。 ○年 5 回開催</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">開催日</th> <th style="width: 75%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">4 月 20 日(木)</td> <td style="text-align: center;">事業計画等</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6 月 20 日(火)</td> <td style="text-align: center;">あずなびあまつり等</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8 月 24 日(木)</td> <td style="text-align: center;">あずなびあまつり等</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11 月 8 日(水)</td> <td style="text-align: center;">事業計画案等</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2 月 6 日(火)</td> <td style="text-align: center;">事業計画案等</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	内 容	4 月 20 日(木)	事業計画等	6 月 20 日(火)	あずなびあまつり等	8 月 24 日(木)	あずなびあまつり等	11 月 8 日(水)	事業計画案等	2 月 6 日(火)	事業計画案等	<p>視聴覚教育に関するあらゆるニーズに応えられるよう、視聴覚教育指導員との連携を密にし、事業を行っていく必要がある。 平成 28 年度の課題であった視聴覚教育指導員の主体的な参加ができる場づくりについては、課題解決できなかったため、引き続き手立てを検討する。</p>
開催日	内 容												
4 月 20 日(木)	事業計画等												
6 月 20 日(火)	あずなびあまつり等												
8 月 24 日(木)	あずなびあまつり等												
11 月 8 日(水)	事業計画案等												
2 月 6 日(火)	事業計画案等												
<p>(2) 学校教育・社会教育専門部会（再掲）</p>	(1-②と同様のため省略)												
<p>(3) 社会教育等主管課長会議 予算、決算及び各種事業の実施状況等の説明のため、構成市町社会教育等主管課長会議を開催した。 ○年 2 回開催</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">開催日</th> <th style="width: 75%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">5 月 29 日(月)</td> <td style="text-align: center;">事業実施状況報告及び決算</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11 月 24 日(金)</td> <td style="text-align: center;">点検・評価、事業計画・予算案</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	内 容	5 月 29 日(月)	事業実施状況報告及び決算	11 月 24 日(金)	点検・評価、事業計画・予算案	<p>当組合教育委員会の事業を推進していくうえで、構成市町社会教育等主管課長の意見や要望を聞き取るうえでも肝要な会議である。構成市町の理解を得て、よりよい事業を展開していけるように努めていきたい。</p>						
開催日	内 容												
5 月 29 日(月)	事業実施状況報告及び決算												
11 月 24 日(金)	点検・評価、事業計画・予算案												

成 果	課 題				
<p>② 広報活動</p> <p>視聴覚教材センター事業の案内と、教材・機材の利用促進、視聴覚教育に関する情報提供を行い、利用率の向上を目指した。発行物については、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材センターだより（隔月発行） ○教育委員会要覧（5月発行） ○教材センターのしおり（5月発行） ○各種題名一覧（5月発行） ○教材センター事業の紹介チラシ（5月発行） ○あずなびあまつりチラシ（9月発行） 	<p>教材センターだよりに記載した教材に対しての予約が入ることもあったため、今後もより利用したいと思えるような広報作りに力を入れていきたい。</p>				
<p>③ 現場訪問事業</p> <p>視聴覚教育指導員と共に、圏域の社会教育施設等を訪問し情報提供を行い、視聴覚教材・機材の利用促進が図られた。</p> <p>○訪問先:公民館(自治センター、まちづくりセンター含む)、保育所(園)、幼稚園、児童館(センター)等</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">期 間</th> <th style="text-align: center;">訪 問 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">4月3日(月)～12月27日(水)</td> <td style="text-align: center;">9施設</td> </tr> </tbody> </table>	期 間	訪 問 数	4月3日(月)～12月27日(水)	9施設	<p>平成28年度の課題に引き続き、どの施設に対しても同じような形でPRしているため、現場訪問先の利用状況、要望等に合わせた事業のPR方法を確立にする必要があると思われる。また、訪問数をより増やせる手立てを検討する。</p>
期 間	訪 問 数				
4月3日(月)～12月27日(水)	9施設				

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
○広報活動では、研修会や講座のチラシを郵便局や銀行やJAなどに配付して、PRを進めてはどうか？	○今後も受講者の増加につながるPRをあらゆる機会を捉えて進めていきたい。
○視聴覚教育指導員に対するアンケートを実施してはどうか？	○視聴覚教育指導員と事業推進を進めていくためにも実施に向けて検討したい。

【仙南広域圏の振興発展に資する事業】

事業目的	子どもたちが興味・関心を持つことのできる事柄を通じて、ことさらに自治体の枠を超えて、圏域の将来の文化活動を担う人材育成すること。また、次代を担う子どもたちと地域の文化を『はぐくむ』ことをテーマとした事業を実施する。
事業名	<ul style="list-style-type: none"> ① AZ9ジュニア・アクターズ養成事業 ② AZ9ジュニア・アクターズアウトリーチ活動 ③ AZ9パスポート事業

成 果	課 題												
<p>① AZ9ジュニア・アクターズ養成事業</p> <p>2市7町の小学4～6年生を対象に募集を行い、応募者は小学5・6年生の在籍者と併せ、演技、舞踊、音楽など舞台芸術に取り組み、仙南芸術文化センターで定期公演を実施した。</p> <p>○定期公演入場者数 1,045名(930名)</p>	<p>現役アクターズメンバーが前年度と比較して7名増加した影響もあり、公演の入場者数は微増した。今後は現役メンバーを増やす手立てだけでなく、卒業生の協力も得やすい環境づくりも必要になると思われる。</p>												
<p>② AZ9ジュニア・アクターズアウトリーチ活動</p> <p>レッスンの成果発表の場ということで、モチベーションと集中力を高め、イベント出演によりアクターズへの興味関心を持つことを目的に実施した。</p> <table border="1" data-bbox="226 748 948 1055"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>開催日</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あずなびあまつり参加</td> <td>9月18日(月・祝)</td> <td>仙南芸術文化センター</td> </tr> <tr> <td>福祉施設訪問</td> <td>10月9日(月・祝)</td> <td>暖暖の里 角田</td> </tr> <tr> <td>柴田町「福祉まつり」出演</td> <td>10月29日(日)</td> <td>柴田町地域福祉センター</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	開催日	場所	あずなびあまつり参加	9月18日(月・祝)	仙南芸術文化センター	福祉施設訪問	10月9日(月・祝)	暖暖の里 角田	柴田町「福祉まつり」出演	10月29日(日)	柴田町地域福祉センター	<p>どの場所に行っても、子どもたちはとてもいきいきと活動していた。今後も引き続き体験させたい。</p>
内 容	開催日	場所											
あずなびあまつり参加	9月18日(月・祝)	仙南芸術文化センター											
福祉施設訪問	10月9日(月・祝)	暖暖の里 角田											
柴田町「福祉まつり」出演	10月29日(日)	柴田町地域福祉センター											
<p>③ AZ9パスポート事業</p> <p>仙南圏域及び県内6圏域の社会教育施設等の無料開放を受けられるパスポートを、圏域内2市7町の小・中学校及び支援学校に配布している。</p> <p>○パスポート利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙南圏域内相互利用施設：7施設 2,436名(3,933名) ・仙南圏域内相互利用以外の施設：11施設 3,895名(3,970名) 	<p>利用人数はその年により、増加と減少とを繰り返している。引き続きホームページ等を活用し、利用促進を図る。</p>												

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
<p>○AZ9ジュニア・アクターズへの理解を深めるためにも、保護者への呼びかけを継続的に行ってはどうか？</p>	<p>○現在も行っているが、さらに理解を深めるためにも、継続的に行っていきたい。</p>

1. 国民参加・体験・交流事業

事業目的	地域文化創造事業で育んだ成果を、住民主体による手作りの舞台制作により発表。「創る」「感動する」喜びの発見、体験に資する事業として開催する。併せて住民企画の文化振興を支援し、文化芸術の振興に寄与する。
事業名	① えぞこシアター第20回公演「ほぼ、夏の夜の夢」 ② えぞこミュージック♪アカデミーコンサート21st ③ AZ9ジュニア・アクターズ第2回公演「牟宇姫とボクとあの殿様」 ④ あずなびあまつり ⑤ えぞこ国民企画劇場（7事業）

成 果						課 題
① えぞこシアター第20回公演「ほぼ、夏の夜の夢」						<p>今年度も、山の手事情社の倉品淳子の指導、演出のもと、参加者のアイディアを盛り込みながら、質の高い作品ができあがり、観客からの高い評価をいただきました。一方、若手メンバーとベテランメンバーの入れ替わりの時期を迎え、世代間の意識のずれや稽古量の多さからの体力面の格差を埋めつつ劇団活動を継続していけるか、長期の課題を抱える。</p>
開 催 日	会 場	入場者数	入場率	参加者数		
8月26日 (土)	平土間 ホール	200名	90.9%	24名		
		夜	156名	70.9%	24名	
8月27日(日)		220名	100%	24名		
<p>【概 要】20回目となる記念すべき公演は、シェイクスピアの代表作の一つ、「夏の夜の夢」をえぞこシアター流にアレンジした作品。大胆かつユニークな解釈・演出で、歌あり、踊りありのエンターテインメントの要素も満載し、シェイクスピアのセリフ劇を活かしたステージが観客を沸かせた。3回公演ともほぼ満席の大盛況で、客席は笑いや拍手にあふれ、20回目となる節目にふさわしい公演となった。入場者数合計576名（計3回公演）</p>						
② えぞこミュージック♪アカデミーコンサート21st						<p>実行委員会の委員が毎年変わり、ゼロからのスタートとなるため、運営、制作面での継続的なレベルアップを図るのが難しい点が課題。モチベーションをどう維持していけるかも課題である。</p>
開催日	会場	入場者数	入場率	参加者数		
11月26日(日)	大ホール	714名	91.0%	146名		
<p>●参加者内訳</p>						
出 演 者	えぞこギター♪アンサンブル				29名	
	えぞこ♪男声合唱団				15名	
	えぞこヴァイオリン&チェロ♪アカデミー				15名	
	e☆GG				14名	
	えぞこウィンド♪アンサンブル				48名	
	司会（宮田敬子／フリーアナウンサー）				1名	
他	舞台スタッフ・ボラスタッフ				25名	
<p>【概 要】えぞこホールを拠点に活動をする5つの住民音楽グループによる合同コンサート。</p>						

通称「アカコン」の名で親しまれるこのコンサートは、出演者はもとより、表方、裏方スタッフもすべて住民、総勢約150名による手作りコンサートだ。今年は「5線＝音楽でつながる」をテーマに、5つのグループがそれぞれに選曲したクラシックからポップス、アニメソングまで、バラエティに富む曲が演奏された。フィナーレでは「365日の紙飛行機」を参加者と観客、全員で合唱し、多くの観客から温かい拍手が送られた。

③ AZ9ジュニア・アクターズ 第25回公演
「牟宇姫とボクとあの殿様」

開催日	会場	入場者数	入場率	参加者数
2月11日(日)	大ホール	591名	96.3%	87名
2月12日(月)		454名	73.9%	88名

【概要】仙南圏域の2市7町の小学4年生～6年生で構成する児童劇団AZ9ジュニア・アクターズ。5月から約10か月間の稽古を重ね、地域のイベントに出演するなどさまざまな活動にも取り組んだ。毎年2月の公演では、仙南圏域の歴史や文化を題材にしたオリジナル作品を上演しているが、今年は角田市を舞台に、角田の歴史や文化を取り入れた作品づくりに臨んだ。時代設定は江戸。牟宇姫と角田城主の石川宗敬ほか、伊達政宗や徳川家光など歴史的人物に光を当てるなど、観客の興味を惹く物語となった。輝く笑顔とエネルギー満載のダンス満載のステージは毎年楽しみにしている方も多く、会場からは温かい拍手が送られた。

子どもたちの演技、ダンスが毎回好評の公演。今年も仙南地域の素材を題材にオリジナル作品を仕上げており、今年も地域密着型の創造溢れる演劇作品と高い評価をいただいた。今後事業の継続と展開、育てる会（保護者の会）や地域との連携などが課題となっている。

④ あずなびあまつり
～えぞこホール&はねっこアリーナ全館かえっこ～

開催日	会場	入場者数	スタッフ数
9月18日(月)	※	2,517名	188名

※えぞこホール全館、はねっこアリーナ（研修室・会議室・剣道場）

●参加者内訳

第1回打ち合わせ会		14名
本番	入場者（大人）	1148名
	入場者（子ども）	1369名
	スタッフ （住民創造グループほかボランティア）	188名

【概要】日ごろ劇場に足を運ぶことが少ない子どもたちに向けてさまざまなワークショップを同時展開するプログラムで、2008年度の第1回目から毎年1000人以上で賑わう人気のイベントとなっている。プログラムの中心には、いらなくなったおもちゃを交換する「かえっこバザール」を配置。人気は地域にすっかり

平成28年度から装いを新たにスタートしたあずなびあまつり（視聴覚教材センターフェスティバル）。えぞこホールとはねっこアリーナを全館を使って繰り広げる子どもたち向けの参加体験型の複合ワークショップ。スタッフの増員、市町村や地域との連携強化と同時にマンネリ化しつつあるコンテンツをどうリニューアルしていくかが課題。

定着。来場した多くの親子連れは、平土間ホールにずらりと並べられたおもちゃを囲んで交流しながら楽しんだ。また視聴覚コーナーでは機材を使ったクイズコーナーやダンボールによる障害物を演出した迷路と16mm映画上映を組み合わせた空間を作った。優れた視聴覚教材の魅力を広く地域の皆さんに知っていただく機会となった。さらに、参加アーティストの岩淵吉能（演劇家）による共同体験型の演劇ワークショップや住民グループによる楽器演奏体験やミニコンサート、ダンス体験、消防&救急救命体験、ニュースポーツやパントマイム、和太鼓体験、紙芝居や折り紙、クイズなど、全館を使って盛りだくさんの体験コーナーで賑わった。

成 果

課 題

⑤ えぞこ圏民企画劇場

■フルーツ☆ボックス「ファミリーコンサート2017」

開 催 日	会 場	入場者数	出演者数	料金
6月3日(土)	平土間ホール	205名	20名	無料

●主催：フルーツ☆ボックス

【概要】小さな子ども向けのイベントが少ない仙南地域で人気のファミリーコンサート。地域住民による有志グループが毎年手作りで企画し開催している。約1時間の公演時間に、生バンドによる楽しい演奏やダンス、あやつり人形劇（『浦島太郎』）などおもちゃ箱のようなワクワクする企画を盛りだくさんで開催した。会場の平土間ホールには絨毯が敷き詰められ、ノリノリのブラジル音楽や人気のアニメソングなど、リズムに合わせてみんなで歌って踊って体を動かした。今年も多くの子どもたちが足を運び、楽しい時間を過ごした

仙南地域に住む方々が地域に根ざして展開する企画を支援する事業。左記7企画について、審査会の採択を経て支援をした。応募企画はそれぞれ地域に根ざし充実した素晴らしい企画であった。

子ども向け事業の充実は全体での課題の一つとしてあげられるが、そうした背景にあって長期継続での事業展開が望まれる。

■AZミュージック・フェスティバル21st

開 催 日	会 場	入場者数	出演者数	料金
7月30日(日)	平土間ホール 屋外劇場 屋外スペース	800名 (延べ)	212名*	無料

●主催：AZミュージック・フェスティバル実行委員会

※出演者は仙南地域に住む音楽家（プロ・アマ問わず）

【概要】屋外のライブイベントとしては仙南圏域内では最大規模とされ、「アズフェス」の愛称で仙南の夏の風物詩の1つに数えられるまでに成長したAZ MUSIC FESTIVAL。雨天に見舞われ、運営能力を問われる事態にも落ち着いた対応で、実績と経験に培われたスムーズな運営体制が敷かれた。4つのステージを設え、飲食ブースや子どもも楽しめる創作ブースを設けるなど、さまざまな工夫が凝らされた。出演者、観客共に交流を広げつつ、大いに盛り上がった。

屋外イベントは天気、天候に左右される。そのノウハウは運営力にかかっており、運営母体が次の代にどう引き継いでいけるかは、継続性を含め今後の課題といえる。

■第3回仙南地方の民話交流のつどい

開催日	会場	入場者数	出演者数	料金
10月15日(日)	平土間ホール	200名	15名	無料

●主催：仙南地方の民話交流実行委員会

【概要】午前の部は3つの会場に分かれ、動物、人、伝説をテーマとしてそれぞれにまつわる民話を語り合い、参加した方々の交流の場を設けた。お昼の部は昼食をとりながら参加者の日ごろの活動の情報交換の場ともなった。午後の部では、平土間ホールを会場に「次世代にどのように民話を伝えていけるのか」をテーマとした講演会を開催。参加者からも多数質問が出て、課題等の共有を図ることができた。さらに中学生が参加してくれたことを主催者は大きく評価。また、仙南に伝わる伝説で川崎の『青根温泉物語』や丸森の『七夕伝説』など新たな伝承にも光を当てることができた。

民話や伝承をどんな形で次の世代に伝えていくか、根本的な課題と向き合いながら、広がりや継続性のある事業展開が問われる。

■第13回 新春コンサート ～仙南地区ゆかりの教職員による～

開催日	会場	入場者数	出演者数	料金
1月21日(日)	大ホール	300名	30名	無料

●主催：仙南地区教職員研究演奏会実行委員会

【概要】13回目を迎えた新春コンサート。普段は音楽を表現する楽しさを伝え、指導する立場の教職員の方々が、これまで研鑽に努めてきた演奏を披露。自らが表現者としてステージに立った。トランペットやピアノ、オーボエなどの楽器の独奏、重奏のほか四重唱など多彩なプログラム構成で会場を沸かせた。演目の最後は、合唱曲『大地讃頌（カンタータ「土の歌」）より』の恒例の記念合唱で、出演者ほか出演者の教え子の生徒たちも参加し、華やかなフィナーレを飾った。

教員による自己表現の場づくりは非常に重要である一方、自己満足の場に留めず、表現者としての活動と広がりをもどのように作っていくかが課題。

■DAN DAN DANCE&SPORTS 14th

開催日	会場	入場者数	スタッフ数	料金
1月27日(土)	大ホール	310名	240名	無料

●主催：仙台大学・DAN DAN DANCE&SPORTS 実行委員会

【概要】仙台大学の学生を中心に、地域の大学、高等学校、ダンス・スポーツ団体、福祉グループなど幅広いジャンルから多くの人々が参加する身体表現のイベント。仙南圏域にとどまらず、仙台や岩手などから17団体が参加。ジャンルもヒップホップやコンテンポラリーダンス、新体操、チアダンスなど多彩で、それぞれに工夫が凝らされたパフォーマンスがステージ上で繰り上げられた。今年はゲストダンサーとしてドイツからミハエル・シャンドール氏を迎え、学生らは、ミハエル氏によるワークショップを通して、交流を図りながら作品を作り上げていく過程を体験。より奥の深い文化さを感じながら、新たな思考回路を作り出すきっかけともなった。

毎年学生が入れ替わることで、企画力や運営が大きく左右される。どのようにノウハウやこれまで培ってきた事業趣旨を後輩たちに伝え、維持しながら広がりのある事業を展開していけるかが課題。また、運営に関わる資金繰りについてもその継続が課題の一つとなっている。

成 果					課 題													
<p>■2018 プラスフィエスタ in 仙南 ～吹奏楽の祭典～</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開 催 日</th> <th>会 場</th> <th>入 場 者 数</th> <th>ス タ ッ フ 数</th> <th>料 金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2月4日(日)</td> <td>大ホール</td> <td>820名</td> <td>460名</td> <td>無料</td> </tr> </tbody> </table> <p>●主催：宮城県仙南地区吹奏楽連盟</p> <p>【概 要】 仙南地域の小中高校吹奏楽部24団体と社会人3団体、総勢460人が参加。演奏レベルの異なる個人やグループと一緒に演奏をすることで、互いに刺激し合い、交流が生まれている。特に中高生にとっては貴重な経験になっており、関係者からも高い評価を受けている。当日は、2階席まで満席となり、会場には溢れんばかりの来場者が足を運んだ。また、演奏者が2階客席とステージに立って客席を挟んでの演奏など創意工夫で観客を魅了した。</p>					開 催 日	会 場	入 場 者 数	ス タ ッ フ 数	料 金	2月4日(日)	大ホール	820名	460名	無料	<p>吹奏楽を介して世代間交流などを謳う一方、技術格差のある団体同士が少ない練習時間の中でステージを作り上げるという難しさがある。演奏レベルをどう担保しながら同時に交流の幅を広げられるかが大きな課題。</p>			
開 催 日	会 場	入 場 者 数	ス タ ッ フ 数	料 金														
2月4日(日)	大ホール	820名	460名	無料														
<p>■AZoo 演劇公演第4回「座ろ。」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開 催 日</th> <th>会 場</th> <th>入 場 者 数</th> <th>ス タ ッ フ 数</th> <th>料 金*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3月3日(土)</td> <td>平土間</td> <td>96名</td> <td rowspan="2">32名</td> <td rowspan="2">一般500円</td> </tr> <tr> <td>3月4日(日)</td> <td>ホール</td> <td>60名</td> </tr> </tbody> </table> <p>●主催：AZoo</p> <p>【概 要】 AZ9（アズナイン）ジュニア・アクターズの卒業生による演劇プロジェクト公演。4作目となる本作もオリジナルの脚本と演出で作りに上げられた。座ることで自分を見つめ直し、まるで別の自分と会話しているかのような演出。公園の椅子（ベンチ）を擬人化し、椅子とのコミカルな会話の掛け合いとその演出で作品を惹きたてた。AZ9ジュニア・アクターズが生んだ新たな可能性と仙南地域における演劇の底上げにいつそう期待がかかる。当初のAZoo創設メンバーに加え、AZ9を卒業した新規メンバーも合流。より一層表現がブラッシュアップされ、地域からの発信力のある活動に注目が集めた。</p>					開 催 日	会 場	入 場 者 数	ス タ ッ フ 数	料 金*	3月3日(土)	平土間	96名	32名	一般500円	3月4日(日)	ホール	60名	<p>地域貢献を掲げた活動において、新たなメンバーをどう増やし、目標に向かえるか課題にあげられる。また、AZ9ジュニア・アクターズの卒業生を対象とするがゆえに、内向性にとらわれず広がりのある展開をどう担保していくかも課題とされる。</p>
開 催 日	会 場	入 場 者 数	ス タ ッ フ 数	料 金*														
3月3日(土)	平土間	96名	32名	一般500円														
3月4日(日)	ホール	60名																
有識者による意見・評価					意見に対する対応等													
<p>○住民の企画を支援していくことは、新しい文化の創造に繋がるため、これからも取り組んでいってほしい。</p>					<p>○住民の自主的、主体的な文化活動は地域の文化の裾野を広げる事業として大切なものと考えている。今後も様々な形で支援していきたい。</p>													

2. 地域文化創造事業

事業目的	圏域住民が主体的に文化活動を展開し、「参加する」「表現する」「交流する」ことで、圏域住民の活性化を促進し、併せて地域の文化リーダーの育成を図る。
事業名	① えずこシアター ② えずこヴァイオリン♪&チェロ♪アカデミー ③ えずこウィンド♪アンサンブル ④ えずこ♪男声合唱団 ⑤ えずこギター♪アンサンブル ⑥ e☆GG (えずこ☆ゴスペル) ⑦ えずこボランティアスタッフ ⑧ えずこキッズクラブ (託児ボランティアスタッフ)

成 果	課 題
<p>① えずこシアター</p> <p>構成・演出は11年目のシーズンとなる倉品淳子（劇団山の手事情社／俳優・演出家）。構成演出の手法で、メンバーそれぞれの個性を引き出し、独創的かつ魅力的な世界観を、メンバーと一丸となって創りあげている。公演を楽しみにしているファンも多く、毎年8月に行われる平土間ホールでの公演はいつも満席となっている。12月24日にはこれまで本公演の舞台上演できなかったショートストーリーを「掘り出し物市」と称し、大河原駅前ビルの空き店舗を会場に出張公演（観客52名、参加者延べ33名）を行うなど、自主的な活動も精力的に展開した。●団員数(参加者数):25名 ●参加者延べ人数:1,680名</p>	<p>倉品淳子の指導、演出で、高いモチベーションを保持し質の高い活動となっている。ここ数年では、海外公演、若手劇団駆け出しレインボー、里帰り公演やキャラバンの活動など、活動に広がりや深まりが出てきている。この状況を発展的に継続していくことが課題。</p>
<p>② えずこヴァイオリン♪&チェロ♪アカデミー</p> <p>主に小中学生を対象にしたえずこヴァイオリン♪アカデミーとチェロ♪アカデミーの活動を基礎に、新たに合奏コースを新設し、まもなく1年が経過する。現在、合奏コースの参加者は5名。個人レッスンとして参加する各アカデミーのメンバーと合奏の稽古をすることが定例化しつつある。基礎練習中心から表現する団体活動へと進化し、将来は弦楽合奏団としての活動を目指し、その一歩を踏み出したところである。</p> <p>■えずこヴァイオリン♪アカデミー ●参加者数：9名 ●参加者延べ人数：415名</p> <p>■えずこチェロ♪アカデミー ●（参加者数）：3名 ●参加者延べ人数：196名</p>	<p>今後は、各個人の演奏テクニックを磨いていくことだけではなく、合奏スタイルと団体としての組織、運営力を蓄えていくことが課題となっている。</p>

成 果	課 題
<p>③えずこウィンド♪アンサンブル 毎週火曜、主に平土間ホールを会場に定期練習を行っている。 7月2日には自主企画公演（えずこウィンド♪アンサンブル第19回チャリティーコンサート）を開催。「音古知新」をテーマとした曲の数々を披露。アニメ映画『君の名は。』の交響組曲やミュージカルや実写の映画にもなった『美女と野獣』など、話題の曲目も演奏し、幅広い客層に楽しんでいただいた。さらに、仙南を中心とした中学校や高校への楽器や合奏指導ほか、地域でのイベントへの参加も積極的に行うなど、地域とのつながりを求め、活動の活性化を図った。 ウィンドキャラバン／13回実施、観客数611名。 ●団員数（参加者数）：50名 ●参加者延べ人数：2,969名</p>	<p>毎年新しい参加者が加わり、地域貢献活動も含め、活気あふれる活動を展開している。幅広い年齢層で構成されているため、年代間の意思疎通、演奏レベルを維持しつつ、音楽性をどのように高めていくか、マンネリ化をどう回避し活性化していくかが課題となっている。</p>
<p>④えずこ♪男声合唱団 平均年齢60代後半と住民創造グループの中で最も参加者の年齢が高い男声合唱団。6月11日には第12回目の自主企画公演を開催。女声コーラス・レジーナとの共演するなど熟年世代の活動に注目を集める。また、男声合唱団内で「ダブル・ヴィレッジ」と「オールド・ピアン・アンサンブル」と2つのユニットを擁し、多彩な活動を展開。昨年に引き続き、地域のイベントや老人福祉施設訪問などアウトリーチ事業も行うなど、精力的に活動を展開。熟年男声合唱の魅力で、えずこ男声ファンを増やし続けている。●団員数（参加者数）：16名、●参加者延べ人数：699名</p>	<p>自主コンサートのほか、キャラバン事業への取り組みにも意欲的だが、参加者の高齢化が進み、若年層の参加者の取り込みが課題。</p>
<p>⑤えずこギター♪アンサンブル 今年度も初心者向けギターワークショップを開催。クラシックギターに興味を持った方が「えずこギター♪フレッシュャーズ（ビギナーズコース）」へ参加する流れを作り、活動の活性化を図り、ギター振興を積極的に進めている。15回目の定期演奏（6/25・大ホール・観客566名、参加者数=34名）ではプログラムに創意工夫を凝らし、技術面の格差を感じさせない内容で多くの観客から支持を受けた。さらに、地域に出向いてのアウトリーチ事業にも積極的に取り組み、学校や福祉施設でミニコンサートなど（5回実施、観客数675名）で活動の幅を広げている。●団員数（参加者数）：15名、フレッシュャーズ:18名 ●参加者延べ人数：1,986名</p>	<p>フレッシュャーズ（初心者コース）が増え、活動が盛り上がりモチベーションも高い。自主コンサートも毎年好評で、アウトリーチも積極的に展開。意識と活動レベルを維持しつつ、表現力の向上と新しい展開が今後の課題。</p>

成 果	課 題
<p>⑥ e☆GG (えずこ☆ゴスペル 通称:エッグ) 精力的な練習と地域でのアウトリーチ活動(3回、観客数185名)を重ねながら活動の幅を広げている。「やまもと地域交流福祉まつり」や「しばたファンタジーイルミネーション」のカウントダウン点灯式の出演は地域での人気のイベントとして定着してきた。アカデミーコンサートでは、通称「ロビコン」で親しまれる幕間中のロビーを使ったミニコンサートで、えずこ♪男声合唱団やえずこギター♪アンサンブルとコラボレーションし、大いに会場を盛り上げた。現在、参加者の9割が女性で、男性参加者の新規加入が待望される一方、団体設立15周年を目前に、活動の新たなビジョンを打ち立てたいと意気込みが熱く語られている。</p> <p>●団員数:11名 ●参加者延べ人数:411名</p>	<p>自主運営の体制強化も図られ実力もついてきている。アウトリーチの回数も増え活動の今後の展開が期待される。また、新年度は創設15周年記念の節目となっており、その記念の活動をどのように企画・展開していくか、運営力の向上も課題としている。</p>
<p>⑦ えずこホールボランティアスタッフ えずこホールの主催事業やイベントの際に、受付(もぎり・パンフレット配布など)や会場・客席誘導、バーカウンターサービスなどの接客サービスをサポートするえずこホールボランティアスタッフ。接客サービスの向上のため研修会やミーティングなどを開催している。さらにボランティアの活動意欲向上のために、活動に参加する毎にポイントを発行し、そのポイントがたまると、えずこホールの主催事業の招待券などがもらえるポイント制を導入している。</p> <p>●団員数(参加者数):30名 ●参加者延べ人数:257名</p>	<p>課題として、メンバーの固定化と高齢化があげられ、新規参加者をどのように増やしていくか検討する必要がある。また、サービスのための意識向上も課題となっている。</p>
<p>⑧ えずこキッズクラブ(託児ボランティアスタッフ) 「こどもがいるからえずこホールに公演を見に行けない」そんな声に応えるため、えずこ託児ボランティアは、えずこホール主催事業(鑑賞事業)の開催時に託児ルームを開設し、お子様をお預かりする活動を行なっている。1人500円というリーズナブルな金額も好評で、小さいお子様がいるご家族にもゆっくりと事業を鑑賞していただいている。また、月に一度のペースで開催している「えずっこひろば」(詳細は、ワークショップ欄)も人気。子育て世代でも文化ホールに気軽に足が運べるよう取り組んでいる。</p> <p>●参加者数:17名 ●参加者延べ人数:110名</p>	<p>「えずっこひろば」の継続性とバリエーションを強化していくことが課題。一方、鑑賞事業での託児数が減少傾向にあり、利用数の増に向けて広報告知の強化も必要である。</p>

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
<p>○開館から20年余りを経過し、どんな人材が育ってきたか、具体的に示せると評価するにも分かりやすくなると思うのだが。</p> <p>○各団体には共通の課題が多くみられるので、代表者らが一緒に課題解決に向けた情報交換の場を強化してはどうか。</p>	<p>○実際にどんな団体のどんな人材がいるのか、個人情報の配慮もしつつ見極めて示せるようにしたい。</p> <p>○現在実施している指導者・代表者会議をより有効に使い、そうした場の強化を図っていききたい。</p>

3. 鑑賞事業

事業目的	音楽、演劇、古典芸能、異文化体験プログラムほか、幅広いジャンルの中から厳選し、優れた舞台表現にふれる機会を提供するとともに、併せて「参加」「体験」できるプログラムを開催し、多面的な地域の文化振興を図る。										
事業名	<p>① ハワイアン・ミュージック& フラコンサート</p> <p>② 諏訪内晶子&ボリス・ベレゾフスキー デュオリサイタル</p> <p>③ Mr. バンクの魔法のガラクタ～石・棒・折れた骨【中学生招待公演】</p> <p>④ Mr. バンクの魔法のガラクタ～石・棒・折れた骨【一般公演】</p> <p>⑤ えぞこプレミアムライブ2017 夏木マリ with Special Guest 加藤ミリヤ</p> <p>⑥ こまつ座『きらめく星座』</p> <p>⑦ えぞこ寄席2018 入船亭扇遊独演</p>										
	成 果		課 題								
	<p>① ハワイアン・ミュージック& フラコンサート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開 催 日</th> <th>会 場</th> <th>入 場 者 数</th> <th>入 場 率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月19日(月)</td> <td>大ホール</td> <td>369名</td> <td>68.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>●出演：ロン・クアラアウ、カポノ・ナイリイリ、タービン・マキア、ラダーシャ・ホオフリ</p> <p>【概要】当初予定していたHAPAのコンサートは、ギターのバリー・フラナガンが健康上の理由で来日がかなわず、出演メンバーが変更となるアクシデントに見舞われたが、元HAPAメンバーで全米ツアーにも参加したカポノ・ナイリイリを加え、「ハワイアン・ミュージック&フラ・コンサート」として開催した。ハワイアンミュージックとフォークロックがミックスした独特の旋律と美しいハーモニーの演奏、加えて元ミスハワイのラダーシャ・ホオフリによるフラダンスも繰り広げられ、会場はハワイの風に包まれた。フラダンス経験者を客席からステージに上げて一緒にパフォーマンスする場面もあり、気さくなMCも交えたショーを来場者は楽しんだ。</p>		開 催 日	会 場	入 場 者 数	入 場 率	6月19日(月)	大ホール	369名	68.8%	<p>出演者の変更によるタイトルの変更などがあり、対応に苦慮する場面があった。そうした状況に臨機応変に対応しながら幅広いラインナップを揃えるためにはこうした海外文化の紹介は必要と考えている。</p>
開 催 日	会 場	入 場 者 数	入 場 率								
6月19日(月)	大ホール	369名	68.8%								

成 果				課 題
② 諏訪内晶子&ボリス・ベレヅフスキーデュオリサイタル				全国的にもクラシック音楽離れが進む中、事業の充実が必要である。アウトリーチ事業を含めた多面的な事業を展開しながら、幅広い取り組みとして展開していきたい。
開 催 日	会 場	入 場 者 数	入 場 率	
6月22日(木)	大ホール	487名	83.4%	
●出演：諏訪内晶子（ヴァイオリン）、ボリス・ベレヅフスキー（ピアノ） 【概要】 1990年にチャイコフスキー国際コンクールで共に優勝した2人の夢の共演。えずこホールでのコンサートが日本ツアーの初日となった。全4曲を2人のソリストで演奏するというごくシンプルな構成だったが、約2時間にわたり芳醇な演奏をじっくり聴かせた。またアンコールでも3曲、ヴァイオリンの名曲を奏でた。終演後は2人の演奏CDの物販およびサイン会もあり、多くの来場者がアーティストと触れ合う時間となった。				
③ Mr. バンクの魔法のガラクタ【中学生招待公演】				感受性の瑞々しい中学生に、本物の舞台、優れた作品、異文化に触れていただく企画。感性や創造力の大切さ、異文化に直接触れ、それを受け入れる心の柔軟さ、寛容さを伝える機会として、これからも継続していきたい。
開 催 日	会 場	入 場 者 数		
7月18日(火) ～19日(水)	平土間ホール	746名		
●出演：バンク・パペッツ ●対象（参加校）：大河原中、金ヶ瀬中、船岡中、槻木中、船迫中、村田第一中、村田第二中 各中学2年生、特別支援学級生徒（1～3年生） 【概要】 大河原・村田・柴田3町の中学2年生全員の招待公演。「Mr. バンク」の登場シーンから、ホール内は大盛り上がり、いきなり客席内をうろうろするパフォーマンスに、あちらこちらで歓声があがる。生徒たちは、さまざまなガラクタから生み出されるユーモア満載の影絵ショーに魅了され集中して鑑賞。途中には、先生がMr. バンクに舞台上に引き上げられ、一緒にパフォーマンスするシーンもあり、息ピッタリのショーに会場は爆笑の渦に包まれた。各公演終演後は、パフォーマーのティムさん、テクニカル担当兼マネージャー、プロデューサーのケインさんへの質問コーナーが設けられ、中学生からはさまざまな質問が出た。「創造力・想像力には力があると思います。どんな仕事に就いても大事なものだと思います」などと、力強くメッセージを伝えた。				

成 果				課 題
④Mr. バンクの魔法のガラクタ【一般公演】				異文化体験事業として開催。こうした事業の招聘は多くはない中でどう継続していくかが課題。また、公演のみならず、食文化などその他の要素を取り入れた多面的な事業にすることで、より異文化に対する理解や感じ方を深める企画にしていくことも今後の課題である。
開催日	会場	入場者数	入場率	
7月21日(金)	平土間ホール	168名	80.8%	
7月22日(土)	平土間ホール	163名	78.4%	
		86名	41.3%	
●出演：バンク・パペッツ 【概要】 4歳未満の小さなお子様もひざ上観賞無料の設定を設け、幅広い客層に鑑賞いただいた。影絵使い手が観客席から見える形で繰り広げられるパフォーマンスと、そのシュールな展開に会場からは思わず笑いがこぼれる。影絵は、紙や風船ほか日常にあふれているガラクタを使って生み出される。影絵人形作りの過程を見ながら、それらがスクリーンに映し出されると思わず歓声が上がった。その奇想天外な影絵の世界に誰もが引き込まれた。ときに笑い、ときに心に沁みる影絵芝居のストーリーも多く感動を誘った。これまで見たことのないような創造性が満載のステージは大好評を博し、アンケートからもたくさん声を聞くことができた。				
⑤えずこプレミアムライブ 2017 夏木マリ with Special Guest 加藤ミリヤ				えずこホールだけの特別企画として観客の満足度が非常に高い事業となった。今後もオリジナリティーとクオリティーをどう持続しながら話題性の高い事業として継続していけるかが課題。
開催日	会場	入場者数	入場率	
10月24日(火)	大ホール	676名	88.3%	
●出演：夏木マリ、加藤ミリヤ 【概要】 歌手、俳優、作家など幅広分野で活躍する夏木マリが、スペシャルゲストに、こちらもマルチな才能で注目を集める話題のアーティスト、加藤ミリヤを迎え、えずこホールだけのオリジナルライブを展開。夏木マリの圧巻の歌声と加藤ミリヤも自らがデザインした衣裳をまとい、透明感のある歌声を響かせた。世代が違う2人のアーティストによる熱くパワフルなステージと息の合ったトークで満席の会場を魅了。観客を巻き込んだ楽しいトークでは、2人の人柄に触れられるアットホームな雰囲気にもまれ、和やかな笑いが会場にあふれた。また、レストランコーナーでは、柴田町のインド風カレーレストラン・パオーンが初出店。来場者はボリューム満点のカレーに舌鼓。まさにえずこホールだけのプレミアムライブとなった。				

成 果				課 題
⑥こまつ座『きらめく星座』				良質かつ話題性が高く、キャストも充実した演劇公演のとして評判を得、文化庁芸術祭演劇部門大賞を受賞。規模の大きい演劇公演であるため、キャスト、スタッフ数も多く、準備に数日間を要するほか、送迎各種スタッフワークも多く運営面での課題が残る。
開 催 日	会 場	入 場 者 数	入 場 率	
11月30日(木)	大ホール	516名	77.0%	
<p>●作：井上ひさし、演出：栗山民也</p> <p>●出演：秋山菜津子、山西惇、久保耐吉、田代万里生、木村靖司、後藤浩明、深谷美歩、阿岐之将一、岩男海史、木場勝巳</p> <p>【概要】1996年、ホールのオープニング記念公演以来、主催事業としては21年振りのこまつ座公演となった。東京と宮城（えずこホール）の2都市公演ということで、県外からの来場者も多く見られた。作品は休憩を挟み約3時間という大作であったが、演者の熱のこもった巧みな演技に会場は引き込まれた。信ずるものが壊れていく時代を現代に映しかえるような力強さが本作品にはあった。随所に笑い声が拍手が起こり、歌のシーンでは手拍子がおこった。アンケートでも満足したという回答が多く、定期的なこまつ座公演を待望する声も多かった。なお、こまつ座は本作品の上演を高く評価され、平成29年度（第72回）文化庁芸術祭演劇部門で「大賞」を受賞した。</p>				
⑦えずこ寄席 2018 『入船亭扇遊独演会』				熟練、巧者の噺家を招聘し、質の高い企画として継続してきたことで毎年大人気のえずこ寄席。定着化が進む一方、新規の寄席ファンの開拓が課題。
開催日	会場	入場者数	入場率	
2月17日 (土)	昼	平土間ホール	229名	89.4%
	夜		226名	83.9%
<p>●出演：入船亭扇遊、橘家かな文</p> <p>【概要】寄席ならではの距離感、臨場感を演出し、どの席からでもよく見える演芸場さながらの空間づくりにこだわるえずこ寄席。また、旬な、脂がのった噺家による寄席というコンセプトにもこだわり、10年以上継続して実施してきた。そのコンセプトが浸透、固定客も多く、前売り券が売り切れるほどの人気の事業となっている。今年は、えずこ寄席出演直後に芸術選奨大衆芸能部門文部科学大臣賞を受賞が決まった入船亭扇遊が登場。表情豊かな演技と軽快なテンポ、爽やかな語り口調で会場を魅了した。前座は、噺家・橘屋かな文が務めた。また、公演前日には、えずこ寄席関連企画として、扇遊師匠が出演した映画「ねぼけ」の特別上映会を実施するなど、えずこ寄席の趣向を凝らした企画で話題を集めた。</p>				

有識者による意見・評価	意見に対する対応等

4. アウトリーチ(エデュケーション・プログラム)

事業目的	学校、福祉施設、病院等を対象に、ホールに来館する機会の少ない、あるいは出来ない方々を対象にホールが地域に向いて、一流のアーティスト、そして住民創造グループがエデュケーション・プログラム（教育普及事業）、交流事業として参加体験型で展開し、地域と人の活性化を図る。
事業名	<p>① アーティストキャラバン</p> <p>○ 音楽アウトリーチ（クラシック）</p> <p>（1）中川賢一（ピアノ）×鶴木絵里（ソプラノ）×吉川健一（バリトン）</p> <p>○ 演劇等アウトリーチ</p> <p>（1）岩淵吉能(俳優)</p> <p>（2）柏木陽（演劇家）</p> <p>（3）柏木陽（演劇家）×片岡祐介（音楽家）</p> <p>（4）上田假奈代（詩業家）</p> <p>（5）菅原直樹（俳優・介護福祉士）</p> <p>○ ダンスアウトリーチ</p> <p>（1）楠原竜也（振付家・ダンサー）</p> <p>（2）楠原竜也（ダンサー）、村越麻理子（ダンサー）</p> <p>（3）ISOPP（ヒップホップダンサー）</p> <p>（4）砂連尾理（ダンサー）</p> <p>（5）砂連尾理（ダンサー）×片岡祐介（音楽家）○美術アウトリーチ</p> <p>② シビックキャラバン（住民創造グループ参照）</p>

成 果	課 題
<p>① アーティストキャラバン</p> <p>○ 音楽アウトリーチ（クラシック）8回 参加者数 410 名</p> <p>（1）中川賢一（ピアノ）×鶴木絵里（ソプラノ）</p> <p>×吉川健一（バリトン）</p> <p>柴田町立西住小学校、柴田町立船迫小学校、白石市立大平小学校、白石市立白石第一小学校、川崎町立富岡小学校、川崎町立前川小学校、丸森町立大張小学校、角田市立角田小学校</p> <p>【概要】それぞれ優れたアーティストによるアウトリーチとして、訪問先からは好評を得た。参加体験型を絡めることも大きな効果となっていると考えている。</p>	<p>経験の豊富なアーティストに依頼しているアーティストキャラバン、それぞれ素晴らしいプログラム内容となった。回数を増やし、内容を充実させながら、更にとくさんの方々に参加体験していただきたいと考えている。</p>

<p>○ 演劇等アウトリーチ 13回 参加者数 308名</p> <p>(1) 岩淵吉能(俳優) 障害者社会支援施設寿光園 (2回)</p> <p>(2) 柏木陽 (演劇家) けやき教室、柴田町立船岡保育所、村田町立沼辺児童館</p> <p>(3) 柏木陽 (演劇家) ×片岡祐介 (音楽家) 七ヶ宿町立関保育所、けやき教室、七ヶ宿町立関保育所 フォルテデイサービスここみケア</p> <p>(4) 上田假奈代 (詩業家) 障害者生活介護施設 さくらの風、障害者社会支援施設 寿光園、精神障害者地域活動支援センターしらさぎ</p> <p>(5) 菅原直樹 (俳優・介護福祉士) あいやま小規模多機能居宅介護</p> <p>【概要】 コミュニケーションゲームで気持ちをほぐし、ストレッチで体をほぐし、参加者の創造性を引き出しながら寸劇や簡単なダンスを創る。参加者は皆楽しんで参加しており、いきいきと明るい表情となった。</p>	<p>誰もが創造的になれることを体感していただくため、様々な環境に置かれた幅広い層に有効な事業である。参加者がポジティブにコミュニケーションしていく状況が作り出され、笑顔が溢れ和やかな時間の中で創造性が引き出される。できる限り広い地域、様々な方々を対象に展開していきたいと考えている。</p>
<p>○ ダンスアウトリーチ 15回 参加者数 805名</p> <p>(1) 楠原竜也 (振付家・ダンサー) けやき教室、障害者社会支援施設寿光園、大河原こころのケアハウス</p> <p>(2) 楠原竜也 (ダンサー)、村越麻理子 (ダンサー) 村田町立村田小学校、大河原町立金ヶ瀬小学校、柴田町立船岡小学校、柴田町立船岡小学校、角田市立北郷小学校、柴田町立槻木小学校</p> <p>(3) ISOPP (ヒップホップダンサー) 大河原町立大河原南小学校、丸森町立丸森小学校</p> <p>(4) 砂連尾理 (ダンサー) さくらグループホーム</p> <p>(5) 砂連尾理 (ダンサー) ×片岡祐介 (音楽家) 大河原こころのケアハウス、 あいやま小規模多機能居宅介護</p> <p>【概要】 ダンスが中学校の体育のカリキュラムに加わったことにより、教員の関心度も高い。子どもたちはアーティストたちの動きに魅了され、嬉々としてプログラムに参加していた。</p>	<p>ダンスが学校のカリキュラムにも取り入れられ、毎回大好評を得ている事業。回数を増やしていくことが課題である。</p>

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
<p>○アウトリーチは小グループでアットホームな雰囲気、アーティストと近くで触れ合うことができる点がとても良い。演奏や演劇を鑑賞するだけでなく、直接触れ合うことで、児童の心を揺さぶるような濃密な体験ができる。今後も続けてほしい。</p>	<p>○優れたアーティストによる本物体験のほか、息遣いや表情を身近に感じながらアーティストと交流、共演することは深い感動体験となる。継続してたくさんプログラムを届けていきたい。</p>

5. 各種ワークショップ

事業目的	<p>圏域住民のみなさんを対象に、様々な形で気軽に文化芸術に触れていただく体験型の各種ワークショップを開催し、実施する。</p>
事業名	<p>①えづっこひろば ②クラシックギター体験ワークショップ ③「60歳からの楽しいクラブ活動」 ④はむつんサーブWORLD ⑤OiBokkeShi「老いと演劇」ワークショップ</p>

成 果	課 題
<p>① えづっこひろば 「えづっこひろば」は毎月1回のペースで平日の午前中に開設している、未就学児を対象とした遊びの空間。ホールのホワイエを開放してたくさんのおもちゃを用意し、同世代のお友達や託児ボランティアと思い切り遊んで過ごすことができる場となっている。子育て中の保護者同士の交流やホールの託児サービスの認知度を高める役割も果たす。紙芝居の朗読やパネルシアター、ゲストパフォーマーの登場など、毎回親子で楽しめるイベントも好評で、参加者も増加している。今年、えづこホール20周年記念事業の一環として、出張えづっこひろばも行った。 ●実施回数：11回（通年） ●参加者数延べ 331名</p>	<p>「えづっこひろば」は託児ボランティアが主管。乳幼児を持つ親子向けの交流、情報交換の場として素晴らしい取り組みとなっている。継続して開催していく。</p>

<p>② クラシックギター体験ワークショップ クラシックギターの魅力を地域住民に知っていただくためのワークショップで、今回で5回目の開催。初心者向けのコースで、小学1年生の参加者から50代まで幅広い年齢層が参加。講師のほかにもえぞこギター♪アンサンブルのメンバーが参加者に1音1音丁寧な指導を行い、3回で簡単な曲を1曲合奏できるようになった。今後もギターの魅力と合奏の楽しさを伝えながら、同団体のメンバー増員につながる取り組みとしても期待したい。</p> <p>●実施回数：3回（7～8月） ●参加者数（延べ）：32名</p>	<p>幅広い年齢層が参加したワークショップ。このワークショップからフレッシュアーズが立ち上がり、活動が活発化している。今後の継続展開と初心者が増えることでの音楽性と運営のバランスをとっていくことが課題。</p>
<p>成 果</p>	<p>課 題</p>
<p>③ 「60歳からの楽しいクラブ活動」 60歳以上の方を対象としたプログラム。社会包摂型の取り組みとして、今年で4年目を迎えた。参加者がいきいきと活動し、その活動がさらに周囲の人や組織とも繋がっていくという展開へと進んでいる。さらに、自主性を持った活動の兆しが見受けられるなど、今後の展開に期待が集まる。今年度の内容は、演劇家・柏木陽、音楽家・片岡祐介を講師として寸劇や作曲を行う活動と、詩業家の上田假奈代が講師とした2つのコースを中心に実施。また、自主的活動日を設け、これまでの作り上げてきたものや経験をベースに、地元の老人介護施設などで活動を行い、その可能性を広げている。</p> <p>●実施回数13回開催（通年） ●参加者合計97名</p>	<p>今後は、アーティストありきのプログラムではなく、自立型の活動をどう充実させていけるかが大きな課題。</p>
<p>④ はむつんサーブWORLD アニメーションダンスの草分け的存在で、マドンナのツアーに日本人初の参加を果たすなど世界トップクラスの実力を持つはむつんサーブ りきつちよによるダンスワークショップ。世界レベルの指導とあって、子どもから大人まで、ダンス経験も幅広い方々に参加いただいた。繊細かつあらゆる関節や部位を操る巧なダンス技術を体験すると共にダンスの楽しさ、表現する喜びを参加者全員が感じた。</p> <p>●実施回数：1回（12月） ●参加者数延べ86名</p>	<p>地域の方からの提案とめぐり合わせで開催することができた事業ということもあり、継続的な開催が難しい点である。</p>
<p>⑤ OiBokkeShi「老いと演劇」ワークショップ 演劇的手法により認知症患者と上手に付き合うための具体的な事例を、映像を交えた分かりやすい内容で実施。導入編では、現場経験に基づく内容から起こした興味を惹く内容でイメージ共有を図った。第二部では、より具体的な体験を通して、認知症を患う患者とどのように向き合えばよいか、さらに理解を深められるよう体験型のワークショップを実施。患者に寄り添い、その局面を演ずることでより良好な関係性を生み出し、状況が改善されていくことを実践的に体験していった。アウトリーチで伺った施設でもそれらの内容で大きな反響を呼んだ。●</p> <p>●実施回数：2回（2部構成/2月） ●参加者数延べ101名</p>	<p>先進的な取り組みとして内容の濃い事業となった。講師が遠隔の方であり、その専門性という点も含め気軽に招聘することが難しいことが課題。今後の展開として、演劇、福祉の境を越え多数の参加者が、こうした手法を福祉、演劇の各現場応用していけるか、課題としても注視していきたい。</p>

有識者による意見・評価	意見に対する対応等
<p>○60歳からのクラブ活動について、より充実させるという意味で、童謡やラジオ歌謡を取り入れてはどうか？</p> <p>○障害のある人や外国人など地域社会で課題性のある分野、人々を対象としたプログラムも今後検討をしていってほしい。</p>	<p>○活動を充実させるという意味で、検討したい。</p> <p>○社会包摂型のプログラムという意味では、その延長線上にあるプログラムが多くある。一つ一つ実現に向けて検討していきたい。</p>

参考：平成 29 年度に助成、支援、共催等により国・県その他から財政支援を受けた内容

*文化庁「平成 29 年度文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業」 14,625,000 円

*宮城県「平成 29 年度文化芸術の力による心の復興支援事業」 300,000 円

*みやぎ県民文化創造の祭典共催事業

(音楽・演劇・ダンスの各アウトリーチ、ワークショップ事業) 647,000 円

*東京都歴史文化財団負担金「東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業」 500,000 円

合計：16,072,000 円